

第6次総合計画策定 調査特別委員会レポート 中間報告

— 11月6日開催 —

詳しい資料は
こちら



地震における津波避難緊急事業

冬期間の対策だけではなく、**夜間に災害が起きた場合の対応、必要な備品、避難場所の有害鳥獣対策**も改めて検討されたい。



夜間に災害が起きた場合のLEDライト



町が開催した全町を対象とした防災訓練

青少年交流センター

ゼロカーボン・モビリティ導入事業

脱炭素を進めるため、青少年交流センターに太陽光パネル・EV車を導入することのだが、**ゼロカーボンに関連した町全体の事業計画の中で進めるべき。**

教育用コンピュータ等整備事業

現在使用しているタブレット端末は**破損・紛失等の対応について責任の所在がはっきりしていない。**機器更新計画を実施する際にその点を整理し賠償保険等を検討されたい。

青函トンネル記念館

屋外展示物解体撤去事業

老朽化に伴い撤去・解体予定とのことだが、当時の記録を伝える貴重な物であり、継続して展示していける方策を検討されたい。

第2青函トンネル構想実現に向けて構想等の展示を充実させ、**観光客に対し職員がガイドとして説明できるような研修等の体制**についても検討されたい。

【委員会意見中間報告】

SDGsへの考え方が6月に行った調査から後退していると感じる。町民に対し理解が進むようPRの方法について検討されたい。

政策等調書・総合計画事業進行管理表については、**事務全般について省力化することは、必須の課題**でもあり、引き続

き見直しに向けた検討を積極的に進められたい。

政策等調書の記載内容に統一性がなく適切でない点が多々あることと、過去の会議等での**答弁で6次計に載せるとしていた事業が、検討から漏れ登載されていないことを指摘しておく。**

第6次総合計画策定 調査特別委員会レポート 最終報告

— 11月27日開催 —

青函トンネル記念館等 屋外展示物解体撤去事業

「くろしお号」は、当時の取り組みを伝える大変貴重なもので、協議を継続し、方向性を見出す努力を望む。



長年展示されているくろしお号



メモリアルパークの蓄電池機関車



青函トンネル記念館は、第2青函トンネル構想の実現を発信していくうえでも重要な施設。**屋内展示物を今のトンネル掘削技術等のPR展示に変えることも検討されたい。**

町民・職員が情報発信できるよう理解を深め、第2青函トンネルの必要性を感じてもらえる**取り組み**について検討されたい。



トンネル記念館正面、側面の看板



コミュニティ活動支援事業

事業内容の見直しなどの検討を行い、1町内会でも多く事業に参加してもらえよう努められたい。

コミュニティ活動支援事業って何？

町内会が自主的に活動できるように支援のこと。生涯学習機会（〇〇教室等）の確保や、町内会館の改修・整備などがあります。

【委員会総括意見】

総合計画を構成する基本構想・基本計画・実施計画について一通り調査をしたことから、本特別委員会の調査を今回で終了する。

これまでも指摘しているが、実施計画の全体事業件数が96件あり、**全事業について、適否を判断するには、時間的に多少無理があった**と思慮する。

実施計画を議決する意義は、基本構想・

基本計画に基づく具体的な政策メニューの確認と財政見通しを見極めることにあり、実施計画全事業の執行（予算化）を容認するものではない。政策推進過程や予算計上の段階でさらに議論して決定するものである。

計画の各施策で定めた目標達成に向け、効果の検証と必要な改善に積極的に取り組み、適切な財政運営と関連する計画の確実な推進に努められることを強く期待する。

第6次総合計画策定 調査特別委員会レポート 計画（案）に反映された議会の意見



◆基本構想（案）

- カタカナ用語が多いため、町民が理解しづらい言葉には解説を追加する等の工夫が必要。

→用語解説を追加。

- 福島町の強みに特産品として「スルメ、養殖アワビ、キタムラサキウニ etc.」とあるが、町の大きな産業である「養殖コンブ」も追加するべき。

→特産品に「養殖コンブ」を追加。

◆目標とする指標の数値・設定

- 資料の数値について、項目によりばらつきがあるので、統一するべき。

→令和4年度実績値で統一。

◆実施計画（案）

- トンネル記念館屋外展示物は当時の様子を伝える貴重なもので、協議を継続し、方向性を見出す努力を。

→今後の展示について協議を継続。

- トンネル記念館は 第2 青函トンネル構想実現にむけた情報発信の起点となる。展示の充実とガイドの育成が必要。

→情報発信を各担当課で連携して対応。観光客向け資料を作成し配布。

- 学校で使用しているタブレットについて管理責任の整理が必要。

→破損・紛失時のルールを整理。

- 青少年交流センターに太陽光パネル、電気自動車を導入することだが、ゼロカーボンに関連した町全体の事業計画の中で進めるべき。

→令和6年度策定予定の脱炭素戦略計画（仮称）の中で調整。

- 夜間災害時の備えと、過去に熊の被害があった避難場所もあるため対策が必要。

→避難場所に懐中電灯などの夜間対策用品や、クマよけスプレーなどの熊対策用品を備蓄のほか、有害鳥獣への対策も検討。

- S D G s の町民理解に向けた周知が必要。

→令和6年の広報で特集記事を掲載予定。